四国遍路の世界

愛媛大学法文学部教授　胡（えべす）　光
（四国遍路・世界の巡礼研究センター長）

【講演要旨】

2014 年は四国 4 県で、四国遍路開創 1200 年記念事業が開催され、2015 年は四国遍路が「日本遺産」に認定されるなど、四国遍路を世界遺産にという動きが加速しています。愛媛大学でも 4 月に「四国遍路・世界の巡礼研究センター」が開設され、四国はもとより全国でも唯一の巡礼研究センターとして、学術面から世界遺産化活動を支援することになりました。

世界遺産となるためには、地域や国だけでなく世界的にみて、その資産の「普遍的価値」を証明し、かつ今もなお生きた文化である必要があります。このため、四国遍路の特色を古代から現代まで歴史的に明らかにしなければなりません。

四国遍路の大きな特色とは、「周回型巡礼」「大師信仰」「お接待など庶民文化」をあげることができます。宗派を超えて、弘法大師を信仰しながら、八十八ヶ所霊場を廻り、地域の人々も「お遍路さん」を大師とみなして、もてなします。このような四国の文化に触れた人々は、四国遍路を「お四国」と呼び、何度も廻る人もあります。

過去の記録や伝承には、不治の病や怪我が遍路の途中で治ったという話がたくさん伝わっています。彼らが奉納した絵馬などには、奇跡への驚きと「お大師様」への感謝が綴られています。

現代のお遍路さんにアンケート調査をすると、先祖供養や自分探しなど多様な目的が見られますが、一様に四国に「癒し」を求めていることが分かります。阿波・土佐・伊予・讃岐の 4 ヶ国は、仏教における「発心」「修行」「菩提」「涅槃」の道場に例えられるように、一人であっても弘法大師とともにある「同行二人」の精神で、幾多の困難を乗り越え、結願後には大いなる達成感を得ます。その背景には、四国の自然や文化というものが深く関わっていると考えています。

四国遍路の原型は 1200 年以上前に若き空海が行ったような、修行僧の修行でした。500 年前くらいには、弘法大師の遺跡を庶民が廻るようになり、400 年前ころ八十八の札所が誕生します。この時には、各国の主な神社も札所に含まれていました。明治維新の神仏分離令によって、現在の札所寺院へと移行しました。近年、歩き遍路を行う外国人の姿をよく見かけるようになりました。昨年正月の NEW YORK TIMES では、世界の訪れるべき場所として、日本で唯一「四国遍路（四国)」が選ばれました。「ロストジャパン」古き良き日本がそこにはあると思われています。1200 年もの間、四国遍路は変遷しながらも、人々を四国へと誘ってきたのです。この講演では、四国遍路の歴史について最新研究を紹介するとともに、四国遍路や四国文化、そして四国の魅力についても考えてみます。

【目次】

1　四国遍路の世界遺産化運動
2　四国遍路の成立―辺地修行の時代
3　四国遍路の発展―札所と巡礼の時代
4　四国遍路の転換―札所の興廃
5　遍路日記に見る「接待」と道後温泉
6　「聖地」のすがた―聖地道後と石手寺
7　四国の文化―四国の求心力

１　四国遍路の世界遺産化運動

【資料 1】世界遺産と日本の文化財

昭和 47 年（1972）ユネスコ世界遺産条約成立。

昭和 50 年（1975）文化財保護法改正（無形民俗文化財・伝統的建造物群・選定保存技術、埋文規制）

平成　4 年（1992）日本、世界遺産条約批准（先進国最後、世界 125 番目）。

平成　5 年（1993）法隆寺域・姫路城・屋久島・白神山地、世界遺産初登録。

平成　8 年（1996）文化財保護法改正（登録文化財誕生）

平成 12 年（2000）四国遍路道の世界遺産運動開始（四国経済界）

愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会設立。世界遺産化の会等ボランティア活動

平成 16 年（2004）文化財保護法改正（文化的景観）

平成 18 年（2006）「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産４県共同提案。

平成 19 年（2007）四国遍路世界遺産登録推進４県協議会設立。提案再提出。

平成 22 年（2010）「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会設立→産官学民連携。

阿波遍路道史跡指定（徳島県）

平成 26 年（2014）四国遍路開創 1200 年事業　→　調査進展

平成 27 年（2015）四国遍路が「日本遺産」認定。

愛媛大学「四国遍路・世界の巡礼研究センター」創設

スペイン・ガリシア州と四国４県協力協定

平成 28 年（2016）「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産４県共同提案、３度目。

令和 2 年（2020）世界遺産推進協議会と遍路センターの協力協定

【資料 2】日本の世界文化遺産（2024 年）

①法隆寺地域の仏教建造物（1993 年登録／奈良県）　②姫路城（同年／兵庫県）

③古都京都の文化財（1994 年／京都府）

④白川郷・五箇山の合掌造り集落（1995 年／岐阜・富山県）　⑤原爆ドーム（1996 年／広島県）

⑥厳島神社（同年／広島県）　⑦古都奈良の文化財（1998 年／奈良県）

⑧日光の社寺（1999 年／栃木県）　⑨琉球王国のグスク（2000 年／沖縄県）

⑩紀伊山地の霊場と参詣道（2004 年／和歌山・奈良・三重県）

⑪石見銀山遺跡とその文化的景観（2007 年／島根県）

⑫平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―（2011 年／岩手県）

⑬富士山（2013 年／静岡・山梨県）　⑭富岡製糸場と絹産業遺跡群（2014 年／群馬県）

⑮明治日本の産業革命遺産（2015 年／福岡・佐賀・長崎・熊本・鹿児島・山口・静岡・岩手県）

⑯国立西洋美術館（2016 年／東京都）

⑰「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺跡群（2017 年／福岡県）

⑱長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産（2018 年／長崎県）

⑲百舌鳥・古市古墳群（2019 年／大阪府）

⑳北海道・北東北の縄文遺跡群（2021 年／北海道、青森・岩手・秋田県）

㉑佐渡島の金山（2024 年／新潟県）

【資料 3】日本の暫定一覧表記載文化遺産（暫定リスト）

①武家の古都・鎌倉（1992 年記載／神奈川県）　②彦根城（同年／滋賀県）

③飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群（同年／奈良県）　④平泉・拡張（2012 年／岩手県）

【資料 4】四国遍路の文化財化（2025 年）

【国指定史跡】＊下線今年度追加

阿波遍路道（大日寺、地蔵寺、切幡寺、焼山寺道、一宮道、常楽寺、恩山寺道、立江寺道、鶴林寺道、鶴林寺、太龍寺道、かも道、太龍寺、いわや道、平等寺道、平等寺、雲辺寺道）

土佐遍路道（最御崎寺道、金剛頂寺道、金剛頂寺、神峯寺道、竹林寺道、禅師峰寺道、清瀧寺、青龍寺道、金剛福寺道、観自在寺道）

伊予遍路道（観自在寺道、龍光寺・稲荷神社、仏木寺道、明石寺道、明石寺、大寶寺道、大寶寺、岩屋寺道、岩屋寺、浄瑠璃寺道、浄瑠璃寺、八坂寺、浄土寺、繁多寺、圓明寺、横峰寺道、横峰寺、三角寺奥之院道）

讃岐遍路道（大興寺道、曼荼羅寺道、曼荼羅寺、出釈迦寺、甲山寺、善通寺、根香寺道、根香寺、志度寺、大窪寺道、大窪寺）

八幡浜街道笠置峠越、讃岐国分寺跡、屋島

【国指定名勝】岩屋寺、星ヶ森、満濃池

【伝統的建造物群】内子の町並み、卯之町の町並み

２　四国遍路の成立

〇四国遍路…弘法大師ゆかりの八十八の札所を巡る 1400 ㎞に及ぶ巡礼として知られる。

〇空海（弘法大師）の生きた時代…奈良～平安時代、四国は山林修行の聖地

【資料 5】空海『三教指帰』日本古典文学大系より抜粋要約

「巻上序」十八歳で大学に学び、勤勉した。一人の修行僧に虚空蔵求聞持法を教わり、阿波の大瀧嶽（現二十一番札所太龍寺）に登り、土佐の室戸崎で修行した。修行の成果があり、明星（虚空蔵菩薩）が姿を現した。／「巻下仮名乞児論」（二十四歳以前）金巌（大和金峰山か伊予出石寺）に登り雪に逢って困り、石峯（伊予石鎚山）にまたがって断食して苦労した。

〇平安時代末期（12 世紀）：僧が行う「辺地修行」の聖地「四国」

【資料 6】『今昔物語集』巻 31 第 14（古典文学全集） 平安時代 12 世紀初

今昔、仏ノ道ヲ行ケル僧三人伴ナヒテ、四国ノ辺地ト云ハ伊豫・讃岐・阿波・土佐ノ海辺ノ廻也、其ノ僧共[其]ヲ廻ケルニ、思ヒ不懸ズ山ニ踏入ニケリ、

【資料 7】後白河上皇『梁塵秘抄』巻第二　平安時代 12 世紀末

我等が修行せし様は、忍辱袈裟をば肩に掛け、又笈を負ひ、衣は何時となく塩垂れて、四国の辺地をぞ常に踏む

〇鎌倉時代（13 世紀）には「四国辺路」の語が見えるが、修験者の修行を表す。

【資料 8】「佛名院所司目安案」（醍醐寺文書） 鎌倉時代 弘安年間(1278-88)

一、不住院主坊事者、修験之習い、両山斗藪、滝山千日、坐巌窟冬籠、四国邊路、三十三所、諸国巡礼遂其芸、

〇室町時代（16 世紀）に、空海（弘法大師）と「四国辺路」を結ぶ史料が現れる。

【資料 9】「河野通宣安養寺由緒書板刻(抄)」室町時代　永禄十年(1567)（石手寺蔵）

一、淳和天皇、天長八辛亥(831)載、浮穴郡江原郷衛門三郎求利欲而富貴破悪逆而佛神故八人男子頓死、自伜剃髪捨家順四国辺路、於阿州焼山寺麓及病死一念言望伊豫国司、爰空海和尚一寸八分石切八塚右衛門三郎銘封左手、経年月生国司息利男子継家号息方、件石令置当寺本堂畢（『愛媛県史』資料編古代・中世）／**〇衛門三郎伝説**…神仏を信じない強欲な長者の子が死に、長者は空海を追って四国を廻る。死に際に空海と再会し、伊予の国主河野家に再生することを願い、石を握って再生。

３　四国遍路の発展

〇江戸時代の初め（17 世紀）に、初めて「八十八箇所」の語が登場。

【資料 10】古浄瑠璃『せつきやうかるかや』 江戸時代　寛永八年(1631)

数は八十八所とこそ聞こえたれ、さてこそ四国へんと八十八か所とハ申すなり

〇八十八箇所は、いつだれが作ったか不明

【資料 11】寂本『四国徧礼霊場記』江戸時代　　元禄二年(1689)

八十八番の次第、いづれの世、誰の人の定めあへる、さだかならず、今は其番次によらず、誕生院ハ大師出生の霊跡にして、偏礼の事も是より起れるかし、故に今は此院を始めとす、

〇江戸時代中期（17 世紀末）に初めてのガイドブック誕生　→　修行から巡礼へ

【資料 12】真念「『四国辺路道指南』江戸時代 貞享四年（1687）

巡礼の道すぢに迷惑おほきゆゑに、十方の喜捨をはげまし、標石を建おくなり、東西左右のしるべ并施主の名字彫刻入墨せり、…大師八百五十年忌の春、宿願弥芽し、うひ参の翁、にしひがししらぬ女わらべにたよりせむと筆を手にし、巡礼かず度して一まくりの反故を抱く

４　四国遍路の転換

〇神社も含む多様な宗教宗派の八十八箇所　→弘法大師信仰がまとめる

【資料 13】現在の札所の宗派と本尊

宗派

①真言宗　79 寺　②天台宗 4 寺　③臨済宗 2 寺　④曹洞宗 1 寺　⑤時宗 1 寺　⑥真言律宗 1 寺

＊明治維新で全て寺院に（以前は神社も含む）

本尊

①薬師如来系　24 寺　②十一面観音菩薩　12 寺　③千手観音菩薩　10 寺　③阿弥陀如来　10 寺

⑤大日如来　6 寺　⑤地蔵菩薩系　6 寺　　ほか、聖観音菩薩、釈迦如来、不動明王など

５　遍路日記に見る「接待」と道後温泉

【資料 14】幕末の接待数

讃岐新延家：天保４年（1833）：伊予 35 件（豊後 2、安芸 1)、讃岐 16 件（安芸 2、備前 1)、阿波 16 件（和泉 1、紀伊 1)、土佐 2 件

筑前佐治家：弘化２年（1845）：伊予 13 件、讃岐 25 件以上(備中 9、備前 1)阿波 11 件以上、土佐 0 件

【資料 15】幕末の接待種類（佐治家の場合）

①香物（漬物）21 件　②赤飯 18 件　③月代 7 件　④銭 5 件、唐豆類 5 件

⑥煮しめ 4 件　⑦餅 2 件、草鞋 2 件⑨白飯・焼米・ひきわり飯・弁当・はったい粉・唐黍・薬・茶・豆腐・吸物が各 1 件

６　「聖地」のすがた―聖地道後と石手寺

(1)道後温泉

〇伊予の温湯…「風土記」「日本書紀」「万葉集」「源氏物語」

〇皇室の来訪…景行天皇・聖徳太子・斉明天皇・天武天皇等（参照：玉造・有馬・別府・嬉野・伊豆）

【資料 16】伊予国風土記（奈良時代）

大国主命と少彦名命が伊予国に来た時に、少彦名命が重病になった。大国主命は、大分の湯を地下から

引いて、少彦名命を温泉につけたところ生き返った。その足跡が今も湯の中の石に残っている。

【資料 17】予陽郡郷俚諺集（江戸時代）

伝説にいう。昔、ケガをした白鷺が岩間の湯に足を浸すと快癒して飛び去った。

【資料 18】夏目漱石『坊ちゃん』明治 39 年（1906）

四日目の晩に住田と云う所へ行って団子を食った。この住田と云う所は温泉のある町で城下から汽車だと十分ばかり、歩いて三十分で行かれる、料理屋も温泉宿も、公園もある上に遊廓がある。おれのはいった団子屋は遊廓の入口にあって、大変うまいという評判だから、温泉に行った帰りがけにちょっと食ってみた。…翌日学校へ行って、一時間目の教場へはいると団子二皿七銭と書いてある。…ほかの所は何を見ても東京の足元にも及ばないが温泉だけは立派なものだ。

○「神の湯」をプロデュース…町長伊佐庭如矢、本館建設（明治 27 年）→観光化

・「道後温泉史料」中の料金表には「煎餅」

・江戸時代の土産記録は「艾（もぐさ)」、明治時代は「煎餅」「塩」

○江戸時代には、お遍路さんが必ず立ち寄る。お遍路さんを優遇

・江戸時代は松山藩営、石手寺塔頭が管理

（2）宝厳寺・伊佐庭神社・八幡宮

○宝厳寺…飛鳥時代、越智氏創建、法相宗。鎌倉時代、一遍上人誕生地→時宗

○伊佐庭神社…式内社（平安時代)、南北町時代に現在地、もと湯築城

○道後八幡（応神・神功)、江戸時代まで管理は石手寺

・門前町が道後の中心、聖俗の空間、盛り場

（3）湯築城

○河野家居城…建武年間（室町時代）河野通盛が築城

桃山時代に小早川隆景入城、福島正則廃城。藤堂の出城との新説

江戸時代には、松平松山藩管轄、荒廃。

○道後公園…明治時代、県営。伊佐庭如矢が温泉と一体で活用

（4）裏山経塚

○経塚…平安時代の末法思想、経典を地中に埋める

（5）石手寺

○熊野山虚空蔵院石手寺…真言宗豊山派、四国霊場 51 番札所、本尊薬師如来

○和銅五年(712)河野氏の祖越智氏が白山権現を勧請。天平元年(729)本尊造立。弘仁四年(813)法相宗から真言宗へ。寛平三年(892)安養寺から石手寺へ改称。

○衛門三郎伝説…死と再生の物語

●聖地の成立…自然も重要。水、山、地層、磁場。

7　四国の文化―四国の求心力

○四国遍路＝四国の文化→札所だけでなく、伝統的な景観・自然が残る遍路道や霊地も資産となる

○四国の自然→弘法大師信仰→庶民の文化→再生の物語→未来へ

○四国から世界へ … 四国文化の発信、生きた文化

○研究上の普遍的価値… 円環型巡礼、お接待と庶民性、弘法大師信仰

○登録上の普遍的価値… 救済システム→セーフティネット、永遠性・宇宙観、接待の英語訳、歩く

※愛媛大学ミュージアムで「遍路案内記の世界展」開催中（無料。10：00～17：00）